

動薬協会発 59 号

平成24年3月 9日

社団法人日本動物用医薬品協会  
会 員 各 位

社団法人 日本動物用医薬品協会  
理事長 岡本 雄平  
(公印省略)

台湾における高病原性鳥インフルエンザ及び口蹄疫の新たな発生に伴う畜産関係者等への指導の徹底について

当協会の業務運営につきましては、日頃からご支援、ご協力を頂きお礼申し上げます。  
さて、標記のことについて、農林水産省消費・安全局動物衛生課長より通知がありましたのでお知らせします。



23消安第6130号  
平成24年3月6日

社団法人 日本動物用医薬品協会理事長 殿

農林水産省消費・安全局動物衛生課長

台湾における高病原性鳥インフルエンザ及び口蹄疫の新たな発生に伴う畜産関係者等への指導の徹底について

このことについて、別添のとおり各都道府県畜産主務部長宛てに通知しましたので、御了知の上、円滑な防疫対策の実施につき御協力方お願いいたします。



写

23消安第6130号

平成24年3月6日

都道府県畜産主務部長 殿

農林水産省消費・安全局動物衛生課長

台湾における高病原性鳥インフルエンザ及び口蹄疫の新たな発生に伴う畜産関係者等への指導の徹底について

台湾においては、これまで低病原性鳥インフルエンザが散発的に発生していることから、「台湾における低病原性鳥インフルエンザの新たな発生に伴う畜産関係者等への指導について」（平成24年1月12日付け23消安第5086号農林水産省消費・安全局動物衛生課長通知。以下「指導通知」という。）等により畜産関係者等への指導の徹底をお願いしたほか、当省ホームページ等において各国の高病原性鳥インフルエンザの発生状況等をお知らせしてきたところです。

今般、台湾当局から国際獣疫事務局（OIE）に対し、指導通知によりお知らせした彰化県における低病原性鳥インフルエンザ（H5N2亜型）の発生事例について、その後実施された検査結果から本病のみならず、高病原性鳥インフルエンザ（H5N2亜型）も確認されたこと、また、2月13日、台南市の食鳥処理場において、新たに高病原性鳥インフルエンザ（H5N2亜型）の発生が確認されたことがそれぞれ通報されました。これらのうち、彰化県の事例については、OIEへの報告によると、死亡率の急激な上昇などは認められていないことから、こうしたウイルスの侵入に備え、日常の健康観察をより徹底する必要があります。

一方、口蹄疫については、「台湾における口蹄疫の続発に伴う畜産関係者等への指導の徹底について」（平成24年1月24日付け23消安第5338号農林水産省消費・安全局動物衛生課長通知）等によりお知らせしたとおり、台湾においては継続的に発生が認められ、特に本病の増幅動物である豚での発生が台湾本島のみならず、澎湖島や金門島においても確認されているところですが、2月18日に新たに3件の発生があった旨、OIEに対し通報されました。それによると、今回は血清学的検査のみが陽性であり、臨床症状はなく、ウイルスは分離されていませんが、これまでの発生状況に鑑みると、台湾においては、本病ウイルスが常在している可能性が非常に高いものと考えられます。

つきましては、別添の発生状況地図等を適宜御活用の上、畜産関係者等に対し、高病原性鳥インフルエンザ及び口蹄疫に関する情報を周知するとともに、特に、家畜所有者に対しては、「家畜伝染病予防法第13条の2第1項及び第4項の規定に基づき、同条第1項の農林水産大臣が指定する症状及び同上第4項の農林水産大臣の指定する検体を定める件」（平成23年農林水産省告示第1865号）に定める症状又は「高病原性

鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針  
（平成23年10月1日農林水産大臣公表）第4の1の（1）の③に定める症状を呈していることを発見したときは、遅滞なく、管轄の家畜保健衛生所に通報するよう、引き続き指導を徹底願います。

なお、海外における高病原性鳥インフルエンザの発生状況等の必要な情報については、今後も当省ホームページ等を通じて積極的に公表してまいりますので、御活用いただきますようお願いいたします。

<農林水産省ホームページ：家畜の疾病に関する情報>

URL：[http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku\\_yobo/index.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/index.html)

【OIE情報】台湾における高病原性及び低病原性鳥インフルエンザの発生について

2012年3月6日

動物衛生課

台湾における高病原性鳥及び低病原性鳥インフルエンザ（いずれもH5N2亜型）の発生について、OIE報告がありましたのでお知らせいたします。

【発生1：高病原性鳥インフルエンザH5N2亜型】（初回報告）

出典：OIEウェブサイト [http://web.oie.int/wahis/public.php?page=single\\_report&pop=1&reportid=11703](http://web.oie.int/wahis/public.php?page=single_report&pop=1&reportid=11703)

発生日：2012年2月7日

発生地：台南市 六甲郷（たいなんし ろっこう きょう）ブロイラー肥育農場

【動物種】	【飼育頭数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
家きん	4840	804	804	4036	0

診断：遺伝子シーケンス、赤血球凝集抑制試験、静脈内投与試験（IVPI）、RT-PCR、ウイルス分離

結果：高病原性鳥インフルエンザ（血清型H5N2）陽性

措置：淘汰、隔離、移動制限、消毒、ワクチン接種禁止

【発生2：高病原性及び低病原性鳥インフルエンザH5N2亜型】（続報1）

出典：OIEウェブサイト [http://web.oie.int/wahis/public.php?page=single\\_report&pop=1&reportid=11702](http://web.oie.int/wahis/public.php?page=single_report&pop=1&reportid=11702)

発生日：2011年11月25日

発生地：彰化県 芳苑郷（しょうかけん ほうえんきょう）産卵鶏飼育農家

発生追加情報：2012年1月10日付けで報告した低病原性鳥インフルエンザの発生について追加検査を実施。家きんの死体および咽頭スワブから2種類のH5N2亜型AIウイルス株が分離された。静脈内接種試験（IVPI）の結果に基づき、1つはHPAI、もう一方はLPAIと確定された。

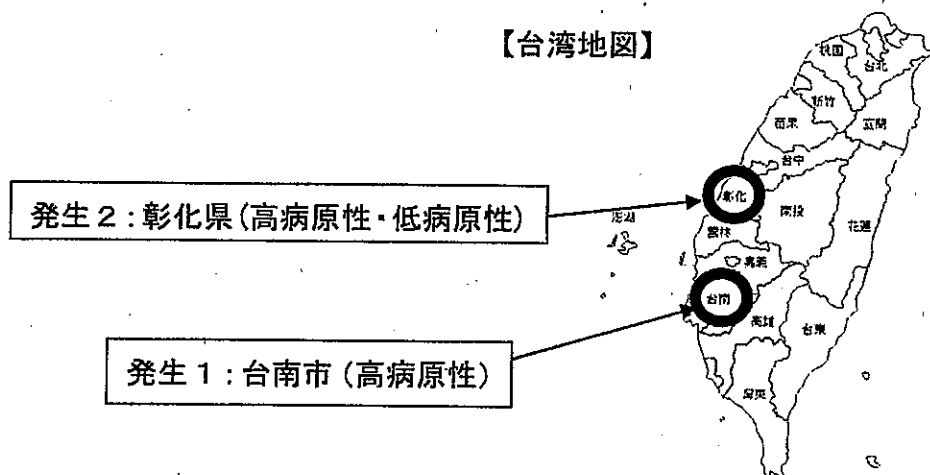
診断：遺伝子シーケンス、赤血球凝集抑制試験、静脈内投与試験（IVPI）、RT-PCR、ウイルス分離

結果：高病原性鳥インフルエンザ（血清型H5N2）陽性

低病原性鳥インフルエンザ（血清型H5N2）陽性

措置：淘汰、隔離、移動制限、施設等の消毒、ワクチン接種禁止

【台湾地図】



# 高病原性・低病原性鳥インフルエンザの発生状況(2010年以降)

## 《ヨーロッパ》

英国	H5(低)	感染確認日: 2010. 5.18
ノッティンガムシャー州		感染確認日: 2010. 7.28
ノース・ヨークシャー州		感染確認日: 2009.10.28
ロシア	H5N1(高)	感染確認日: 2010. 6.11
イタリア	H7N3(低)	感染確認日: 2010上半年
	H5N2(低)	感染確認日: 2010上半年
	その他(低)	感染確認日: 2010上半年
ルーマニア	H5N3(低)	感染確認日: 2010.11.10
	H5N1(高)	感染確認日: 2010. 3.15
オランダ	H7(低)	感染確認日: 2010. 5.16
	H7N1(低)	感染確認日: 2011. 3.22
	H7N7(低)	感染確認日: 2011. 5.12
	H7N7(低)	感染確認日: 2011. 6.24
ドイツ	H5N2(低)	感染確認日: 2010.11.11
	H7N7(低)	感染確認日: 2011. 5.27
フランス	H5N3(低)	感染確認日: 2009.11.13
デンマーク	H7N1(低)	感染確認日: 2010. 3. 9
スペイン	H7N7(高)	感染確認日: 2009.10.11
ブルガリア	H5N1(高)	感染確認日: 2010. 4. 1

## 《東アジア》

中国	H5N1(高)	感染確認日: 2010. 6. 3
	H5N1(高)	感染確認日: 2011.12.12
香港	H5N1(高)	感染確認日: 2010. 3.29
	H5N1(高)	感染確認日: 2010.12.21
	H5N1(高)	感染確認日: 2011. 1.19
	H5N1(高)	感染確認日: 2011.12.19
	H5N1(高)	感染確認日: 2011.12.20
台湾	H5N2(低)	感染確認日: 2010. 1.21
	H5N2(低)	感染確認日: 2010. 9.29
	H5N2(低)	感染確認日: 2011. 3.21
	H7N3(低)	感染確認日: 2011. 4. 7
	H5N2(低)	感染確認日: 2011.11.15
	H5N2(低、高)	感染確認日: 2012.1.6
	H5N2(高)	感染確認日: 2012.2.13
モンゴル	H5N1(高)	感染確認日: 2011. 4.11
	H5(高)	感染確認日: 2010. 5. 8
韓国	H7N7(低)	感染確認日: 2010. 5.20
	H7N7(低)	感染確認日: 2010.10.15
	H7N6(低)	感染確認日: 2010.11. 3
	H5N1(高)	感染確認日: 2010.12. 7
	H7N2(低)	感染確認日: 2010.12.16

高病原性発生地域 =   
 低病原性発生地域 =

※1 ( )は病原性  
 ※2 高病原性・低病原性併発地域は高病原性と表記

## 《アフリカ》

エジプト	H5N1(高)	2010年1月以降も継続的に発生
セーシェル	(低)	感染確認日: 2010上半年
南アフリカ共和国	H5N2(高)	感染確認日: 2011. 2.11
	H5N2(高)	感染確認日: 2011. 3.16
	H7N1(高)	感染確認日: 2012.1.9

## 《南アジア》

インド	H5N1(高)	感染確認日: 2010. 1.14
		感染確認日: 2011. 2.16
		感染確認日: 2011. 9. 7
		感染確認日: 2011.11. 27
		感染確認日: 2012. 1.10
パキスタン	H5N1(高)	2010年1月以降も継続的に発生
イラン	H5N1(高)	感染確認日: 2011.9.15
		感染確認日: 2010上半年
ネパール	H5N1(高)	感染確認日: 2010. 1.31
		感染確認日: 2010.10.27
		感染確認日: 2011.11.14
ブータン	H5N1(高)	感染確認日: 2010. 2.22
		感染確認日: 2012. 1.8
スリランカ	H5N2(低)	感染確認日: 2012. 2.2

## 《西アジア》

イラク	(低)	感染確認日: 2010上半年
イスラエル	H5N1(高)	感染確認日: 2010. 1.26
		感染確認日: 2010. 5. 6
		感染確認日: 2011. 3. 7
		感染確認日: 2011. 4.11
パレスチナ自治区	H5N1(高)	感染確認日: 2011. 3. 3
	(低)	感染確認日: 2010年2月,7月

## 日本

H5N1(高)	感染確認日: 2010.11.29
H5N1(高)	感染確認日: 2010.12.19

## 《東南アジア》

ベトナム	H5N1(高)	2010年1月以降も継続的に発生
インドネシア	H5N1(高)	2010年1月以降も継続的に発生
ラオス	H5N1(高)	感染確認日: 2010. 5. 6
カンボジア	H5N1(高)	感染確認日: 2010. 1.29
		感染確認日: 2011. 1.29
		感染確認日: 2011. 7.19
		感染確認日: 2011. 7.28
ミャンマー	H5N1(高)	感染確認日: 2010. 2. 3
		感染確認日: 2011. 1.16
		感染確認日: 2012. 2.24

## 《南北アメリカ》

アメリカ		
ノースカロライナ州	H5(低)	感染確認日: 2011.3.21
ミズーリ州	H7N3(低)	感染確認日: 2011.3.25
ネブラスカ州	H7(低)	感染確認日: 2011.4.8
ミネソタ州	H7N9(低)	感染確認日: 2011.5.26
ミネソタ州	H7N9(低)	感染確認日: 2011.6.29
オハイオ州	H5(低)	感染確認日: 2011.11.21
ニューヨーク州	H5(低)	感染確認日: 2012.1.24
サウスダコタ州	H5N2(低)	感染確認日: 2012.2.8
カナダ		
マニトバ州	H5N2(低)	感染確認日: 2010.11.23
メキシコ		
コアウイラ州他	H5N2(低)	感染確認日: 2010上半年
ドミニカ共和国	H5N2(低)	感染確認日: 2010上半年
ハイチ共和国	H5N2(低)	感染確認日: 2010下半年
グレナダ	(低)	感染確認日: 2010上半年

## 《オセアニア》

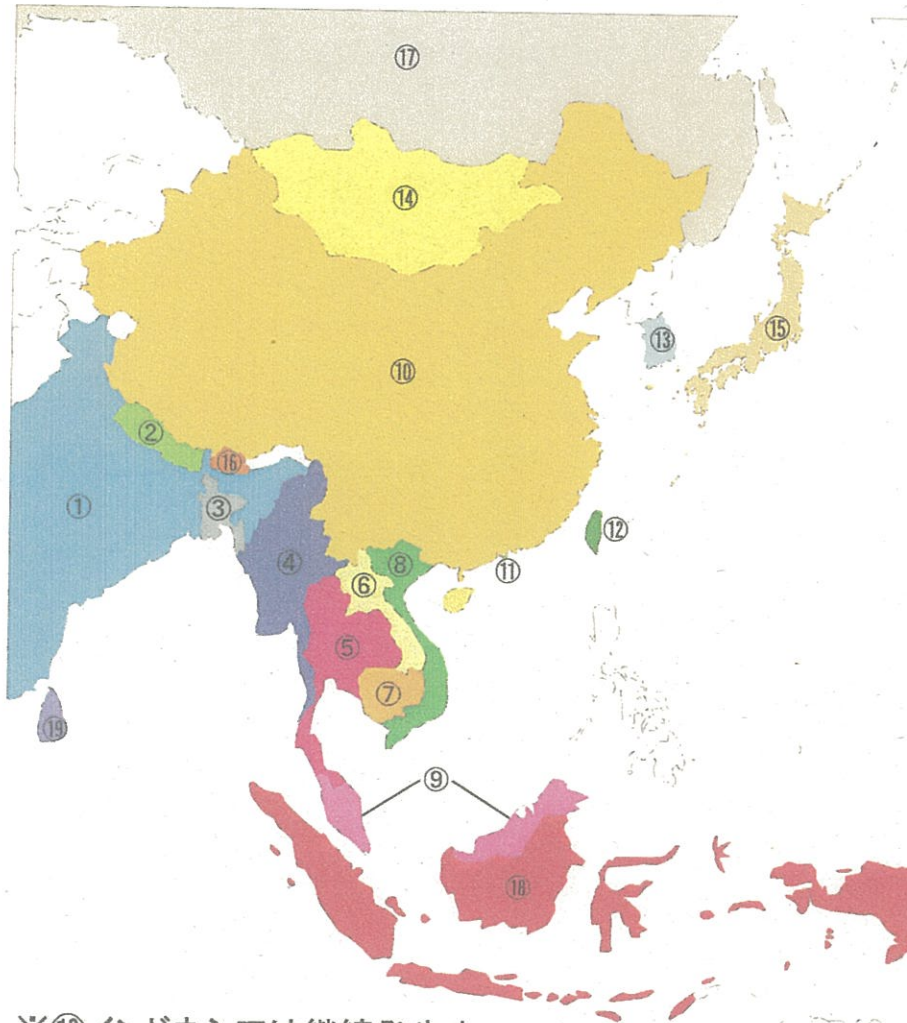
オーストラリア	H5(低)	感染確認日: 2012.1,26
---------	-------	------------------

※1 更新点: 台湾(台南市)における高病原性H5N2の発生(2012.2.13)  
 ミャンマーにおける高病原性H5N1の発生(2012.2.24)

※2 更新点: 本図は発生の有無を示したもので、その後の清浄性確認については記載していない(例: 日本は2011年6月25日より清浄性を回復) 出典: OIE WAHID 及び FAO等

2012年3月6日現在

# アジアにおける高病原性及び低病原性 鳥インフルエンザの発生状況



※⑱インドネシアは継続発生中

※1 ロシアに関してはモンゴル北西のトゥバ共和国及び同国西部のモスクワ州の発生

※2 ランタオ島沿岸部で見つけられた鶏よりウイルスを分離

出典: OIE WAHID 他

2012年3月6日現在

	① インド	② ネパール	③ バングラデシュ	④ ミャンマー	⑤ タイ	⑥ ラオス	⑦ カンボジア	⑧ ベトナム	⑨ マレーシア	⑩ 中国	⑪ 香港	⑫ 台湾	⑬ 韓国	⑭ モンゴル	⑮ 日本	⑯ ブータン※1	⑰ ロシア※1	⑱ スリランカ	
2010年	4月				●	●	●												
	5月			●				●		▲			●	▲					
	6月							●											▲
	7月							●											
	10月	●										●	●						
	11月							●						▲		●			
12月										●※2			●	▲	▲				
2011年	1月		●	●			●				▲		●	●	●	▲			
	2月	●	●	●				●			▲		●	●	▲	▲			
	3月	●	●	●				●			●	●	●	●	▲	▲			
	4月		●					●				●	●	▲	▲				
	5月		●					●				●	●						
	6月		●																
	7月						▲	●											
	8月	●	●				●	●											
	9月	●	●																
	10月	▲						●											
	11月	●					●					●			▲				
	12月			●						●	▲					●			
2012年	1月	●	▲	●				●			▲				●			●	
	2月	●	●		●			●			▲	●							

家きん● 野鳥▲ (赤: 高病原性鳥インフルエンザ、黒: 低病原性鳥インフルエンザ)

【OIE情報】 台湾における口蹄疫（0型）の発生報告について

2012年3月6日  
動物衛生課

台湾における口蹄疫の発生について、OIE報告(3/3)がありましたのでお知らせいたします。

出典：OIEホームページ

[http://web.oie.int/wahis/public.php?page=single\\_report&pop=1&reportid=11688](http://web.oie.int/wahis/public.php?page=single_report&pop=1&reportid=11688)

【概要】

- ・発生数：3件（初回報告）
- ・発生日：2012年2月16～18日
- ・確定日：2012年2月18日
- ・OIEへの報告日：2010年3月3日
- ・血清型：0型
- ・発生3件の総数

【動物種】	【飼育頭数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
豚	3,653	34	0	0	0

【発生状況詳細】

○発生1

- ・発生場所：南投県竹山鎮
- ・発生日：2012年2月18日

【動物種】	【飼育頭数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
豚	564	9	0	0	0

○発生2

- ・発生場所：台南市塩水区
- ・発生日：2012年2月16日

【動物種】	【飼育頭数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
豚	2,319	9	0	0	0

○発生3

- ・発生場所：台南市塩水区
- ・発生日：2012年2月18日

【動物種】	【飼育頭数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
豚	770	16	0	0	0



### 【疫学的コメント】

定期的口蹄疫アクティブサーベイランス中に、3か所の養豚農場において、NSP抗体が検出された。調査によると、当該農場のすべての豚は临床上健康であった。血清学的検査及びウイルス分離のため、血清サンプル及び咽頭ぬぐい液サンプルが採取され、国立研究所（Animal Health Research Institute）に送付された。当該研究所において、NSP抗体陽性を確認したものの、ウイルス分離及びRT-PCRについてはすべて陰性であった。初発農場及び近隣の偶蹄類動物飼養農場のモニタリング及び疫学調査が実施され、感染の臨床的又は疫学的証拠は得られなかった。

### 【感染源】

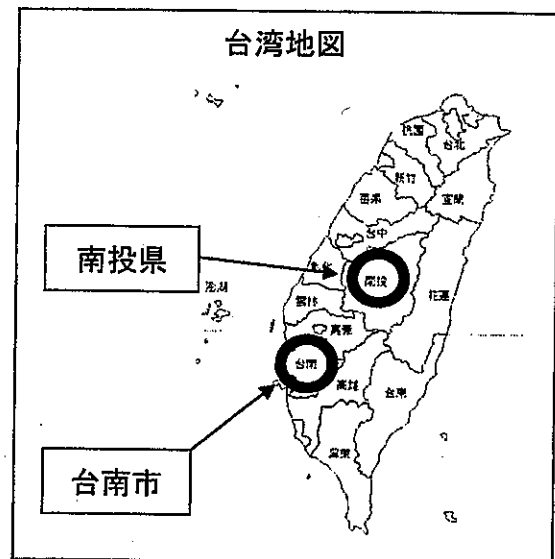
不明または調査中

### 【診断】

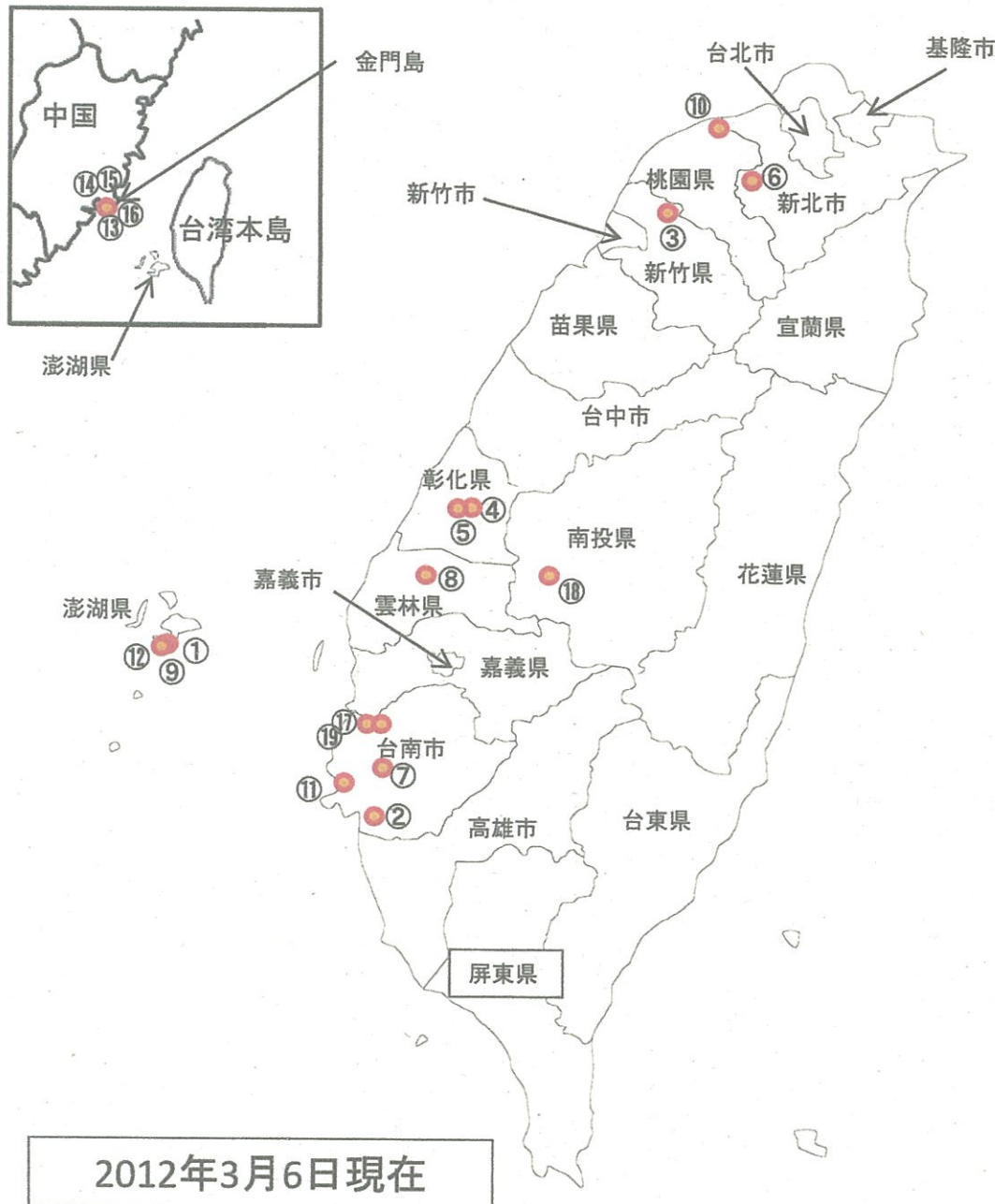
- ・抗体検出ELISA、非構造たん白質ELISA：陽性
- ・RT-PCR、ウイルス分離：陰性

### 【対応】

- ・隔離
- ・国内における移動制限
- ・スクリーニング
- ・施設等の消毒
- ・ワクチン接種しない
- ・患畜を治療対象としない



# 台湾・金門島における口蹄疫の発生状況(2011年～)



2011年

【場所】	【日付】	【血清型】	【臨床所見】
①澎湖県馬公市	:3月22日	(O型、豚)	○
②台南市下營郷	:3月21日	(O型、豚)	○
③新竹県新埔郷	:5月6日	(O型、豚)	×
④彰化県永靖郷	:5月16日	(O型、豚)	×
⑤彰化県田尾郷	:5月23日	(O型、豚)	×
⑥新北市鶯歌区	:7月11日	(O型、豚)	×
⑦台南市西港区	:7月26日	(O型、豚)	×
⑧雲林県二崙郷	:10月19日	(O型、豚)	×
⑨澎湖県馬公市	:10月30日	(O型、豚)	○
⑩桃園県蘆竹市	:12月7日	(O型、豚)	○
⑪台南市北門区	:12月19日	(O型、豚)	○

2012年

⑫澎湖県馬公市	:1月19日	(O型、豚)	○
(導入豚は台湾本島南部屏東県由来)			
⑬金門島金門県金寧郷	:1月26日	(O型、豚)	○
⑭金門島金門県金寧郷	:2月1日	(O型、豚)	○
⑮金門島金門県金寧郷	:2月7日	(O型、豚)	○
⑯金門島金門県金沙鎮	:2月9日	(O型、豚)	○
⑰台南市塩水区	:2月16日	(O型、豚)	×
⑱南投県竹山鎮	:2月18日	(O型、豚)	×
⑲台南市塩水区	:2月18日	(O型、豚)	×

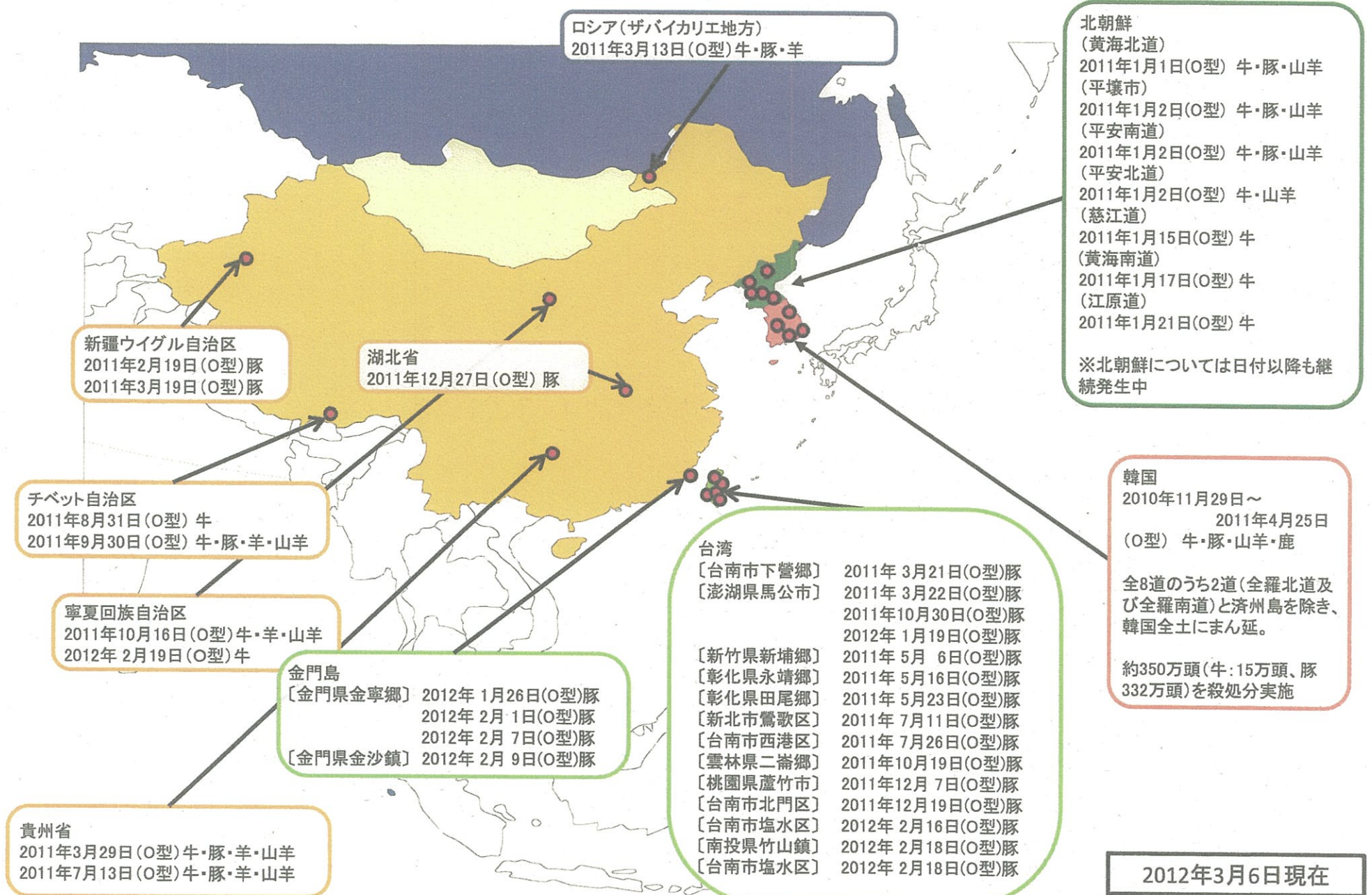
※②～⑧、⑰～⑱は血清抗体のみ確認されている事例  
(その他はRT-PCR陽性)

※日付は発生日(各々の事例が初めて観察された日)  
場所は口蹄疫確認地。

出典:OIE WAHID 他

2012年3月6日現在

# 中国、香港、台湾、韓国、モンゴル、ロシアにおける口蹄疫の発生状況（2011年1月以降の発生）



※更新点: 台湾における口蹄疫(O型)の発生(2012年2月18日)  
北朝鮮の発生状況を行政区分毎に修正、韓国の直近の発生状況について整理

※ 出典: OIE ほか  
※ 日付は発生日(各々の事例が初めて観察された日)